

昨年末の日本ダムアワード 2015 において、本県で管理してきた目屋ダムが、全国の数多くのダムの中から「低水管理賞」を受賞したことは、大変喜ばしいことであり、目屋ダム最後の名誉として、ダム史にその名が永遠に残されることを誇りに思います。

目屋ダムは、昭和 35 年の運用開始から 55 年以上の長きに渡り、津軽平野を流れる岩木川の洪水被害の軽減、かんがい用水の補給及び発電に貢献してきました。昨年、岩木川流域では、初春から夏まで例年以上に少雨傾向が続き、降雨量が過去の平均を大きく下回ったことにより、目屋ダムの貯水位は下がり続け、8 月中旬には最低水位を割り込み、下流の岩木川の水量も大幅に減少しました。このため、目屋ダムでは、同じ岩木川水系の相馬ダムと連携して緊急放流を実施し、農業用水の確保に努めました。この緊急放流等により岩木川の水量を確保したことが、今回の受賞の大きな要因だと考えております。

目屋ダムは、平成 27 年 9 月 30 日をもってその役割を終え、現在下流に建設中の、総貯水容量が 3.6 倍となる津軽ダムの貯水池（津軽白神湖）の中に水没していますが、岩木川を守る先輩として、直上流から見守っていくことと思います。

なお、津軽ダムの建設は、本県の基本計画「未来を変える挑戦」において「安全・安心な県土づくり」を主要施策の一つに掲げ、自然災害から県民の命と暮らしを守るため、災害に強い県土づくりに全力で取り組んでいる中、岩木川の度重なる洪水被害の防止と慢性的な水不足を解消するための抜本的な対策となるものであり、地域の産業や経済の活性化を図るためにも重要な事業です。

これまでの目屋ダムの運用に関し、皆様から多大なる御支援と御協力をいただきましたことに改めて感謝申し上げます。今後は津軽ダムの活躍に御期待ください。

青森県知事 三村 申吾